

実家近く、想像でも思い出せない程何もなくなってしまいました

何から話していいのか…

頭では分かっているつもりなのですが

今でも毎日ネットやテレビで確認してしまいます。

やっぱり本当の出来事なんだ…って。

あの日テレビに映し出された映像は

私の知っている空港や街が津波に押し流され、なくなって行く様でした。

岩手にある母の実家も流されました。

ここも街が消え、何らかの引火により一面火の海になりました。

母の兄弟が消息不明になりました。

私の幼なじみが行方不明リストに載りました。

両親の知り合いがたくさん亡くなりました。

私も友達を亡くしました。

幸い、母の兄弟は10日後に避難所にいることが分かりました。

生きていました。

やっと携帯がつながる様になり

友達と「生きてたんだね」と泣いて喜びました。

家をなくされた方

家があっても帰られない方

津波を目撃した方

一緒に逃げながらも途中ではぐれてしまった方

…

親御さんを亡くされた方

お子さんを亡くされた方

友達を亡くされた方

愛する人を亡くされた方…

心に負った悲しみや苦しみはその方々、それぞれ違うと思います。

その心に少しでも近づけたら、寄り添えたら…と微力ながら想っています。

震災の情報が減って来ていると感じていたこの頃  
皆さんの活動を知り、本当に嬉しく思いました。  
時間を作り活動してこられたのですね。

先日、仮設にいる母の兄弟や親戚等にハンガーを届けさせて頂きました。  
気に掛けてくれるその気持ちが嬉しい、と言っておりました。

被災された方々の時間は止まったままに感じます。  
この様な素晴らしい活動が「東北も復活したね」と言われるその日まで  
心寄り添い、息長く、色々な所で続く事を祈っております。

最後に

ドリカムの「ねえ」という曲をご存知でしょうか。  
歌は知っていましたが、震災後、初めて歌詞を読みました。  
最後の歌詞にはこのような言葉が綴られています。

「どの思い出もあなたの愛と  
いっしょだから  
だいじょうぶ  
逝かせてあげなさい  
かならず  
心から笑える日は  
やって来るから」

時間がいくらかかっても大丈夫。  
いつかこの震災で傷ついた皆さんが  
心から笑える日が来ることを祈っています。